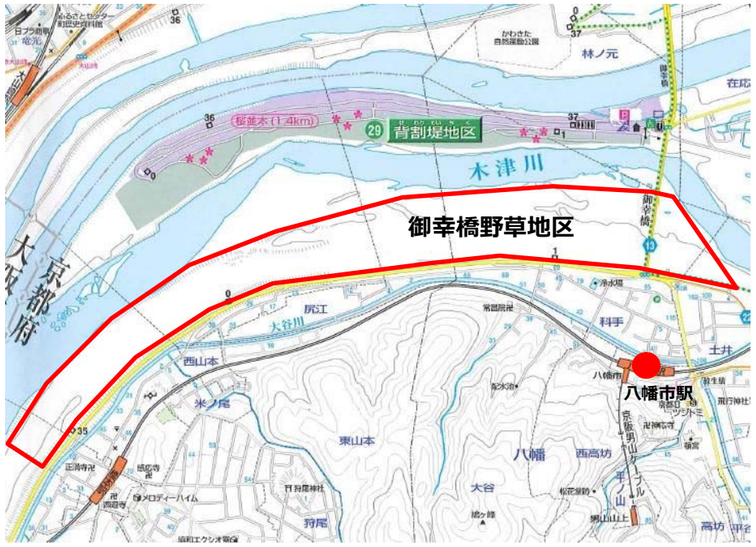
御幸橋野草地区の整備の条件



位置図

１．立地条件

【位置】御幸橋野草地区：京都府八幡市科手地先
【アクセス】御幸橋野草地区：京阪本線八幡市駅徒歩８分
【後背地の条件】
　用途地域：第一種住居専用地域
　背後に男山を擁する

２．淀川における位置づけ

・淀川（宇治川）との合流点付近の木津川最下流部に位置する。
・淀川三川合流部に隣接し、拠点施設整備が予定されている背割堤地区の対岸に位置する。

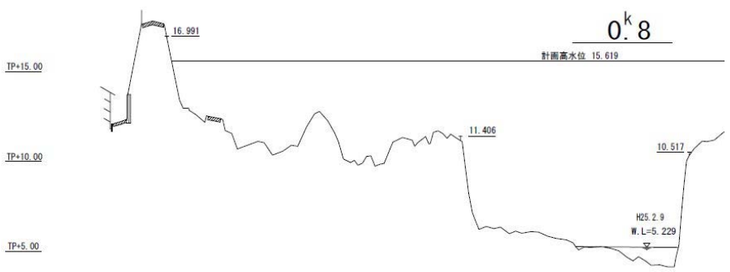
３．上位計画における位置づけ

【淀川水系河川整備計画】(H21)
・**水辺や河原の保全・再生**
　水辺に棲む生物の生息・生育・繁殖に重要な水陸移行帯等の良好な水辺環境の保全・再生を図るため、堤防の緩傾斜化や河川敷から水辺への形状をなだらかにする切り下げ、ワンドやたまりの整備を実施する。
　（中略）
　⑤河道内砂州の掘削等を行い、かつての砂河川の再生並びに現存する良好な砂州の保全を図る。　：木津川下流

【淀川河川公園基本計画】(H20)
・<u>水辺環境保全・再生ゾーン</u>
　水位の変動により撹乱される水陸移行帯等の自然環境の保全・再生を図るため河川敷の切り下げを行うなど、水際に沿って横断及び縦断方向の河川形状の修復に取り組み、その上で、自然環境の特性を損なわないよう留意しつつ、散策や観察などを通じて自然とふれあえるゾーンとする。河川形状の修復過程においては、自然環境の保全・再生に対して影響を与えないよう留意する。
　利用及び管理運営のための施設のうち、便益施設、広場、主園路、サービスセンターについては設置しない。

４．地形条件

・河床の砂の移動が激しく河道が安定していない。
・高水敷の標高が水面よりも５～６ｍ高く、御幸橋から下流側約１㎞までの区間は切り立った崖となっている。
・水際部には広範囲に砂州が広がっており、対岸の背割堤地区との間の木津川の水深は浅い。
・高水敷の横断方向に不連続な起伏がある。
・木津川の河道変動により水際の位置が変化する。



５．動植物の状況

・**植生**：セイタカヨシ群落が広く分布し、その他オギ群落、カナムグラ群落、クズ群落、木本群落であるシンジュ群落等も比較的広く分布している。下流側の水際にはジャヤナギ―アカメヤナギ群集が帯状に分布している。また、河川攪乱性の種であるカワジシャ、ヤガミスゲ、ミコシガヤが確認されている。
・**鳥類**：重要種であるオオヨシキリは広い範囲に生息している。
・**魚類**：重要種は緩流域を中心に生息するコウライモロコ、カマツカ、止水～緩流域を中心に生息するタモロコ、メダカ等が確認されている
・**底生動物**：重要種では大河川緩流部に特徴的に生息するオオシロカゲロウが確認されている。

６．整備の経緯

・明治期から大正期にかけて実施された宇治川と木津川の合流部の下流側への付け替え工事により河道が安定し、現在の高水敷が形成された。
・平成 22 年（2010 年）に木津川御幸橋が現在の位置に架け替えられ、現在、旧橋の橋脚の撤去が段階的に実施されている。
・緊急用河川敷道路の延伸が計画されている。
・平成 25 年　緊急用河川敷道路と府道京都守口線をつなぐスロープ整備

７．利用状況

【背割堤地区（開園済）】
・年間利用者数　約 28 万人（平成 24 年度）
・一時使用内容：　八幡桜まつり（毎年４月）、
　　淀川三川ふれあい交流七夕まつり（毎年８月）
【御幸橋野草地区（未開園）】
・サイクリングルートとしての緊急用河川敷道路の自転車走行が見られる。